

山口県大学ML (Museum・Library) 連携事業報告

令和元年度 展示テーマ

『はじまる～ Begin ～はじめる』



山口県大学ML (Museum・Library) 連携事業報告

令和元年度 展示テーマ『はじまる～Begin～はじめる』

事業の経緯と経過

令和元年度は、参加館が共通テーマに沿って各大学や館の特色を活かした学術資料または研究成果の展示を開催するという従来の体制、参加館数も昨年度と同じく13大学17館（下記「事業の実施体制」参照）での事業となった。

今年度の事業説明会を、令和元年6月28日に山口大学総合図書館において開催、さらに、その後開催した幹事会でも事業内容の検討を続けた結果、

- ◎展示の共通テーマを『はじまる～Begin～はじめる』とする
- ◎事業期間は10月から翌年1月までとし、各館2ヶ月以上展示を開催する
- ◎関連事業としてスタンプラリーを実施し、4pt達成でエコバッグまたは手ぬぐい、全館達成で景品カタログ（各3,000円相当の参加大学オリジナル景品）から1点をプレゼントする。館によりボーナスポイントを付与する
- ◎見学者が効率よく各館を回れるよう、各地区で開催期間を調整する
- ◎参加大学から参加費を徴収し、事業運営に充てる
- ◎各地区事務担当館を設置する
- ◎事業幹事館を設置し、事業にかかる企画運営を協議する

などが決定された。なお、事務担当館は後日協議のうえ、下関地区担当館は下関短期大学図書館、宇部地区担当館は宇部フロンティア大学附属図書館となった。また、幹事館は山陽小野田市立山口東京理科大学図書館、至誠館大学附属図書館、梅光学院大学図書館、梅光学院大学博物館、山口大学埋蔵文化財資料館となった。

以降、各館の展示準備とともにポスター、チラシ、スタンプラリーカードなどを作成し、広報物配付後は事務局、各館による地域広報活動が進められた。また、今年度は特に広報に注力するという方針の下、県下の地域広報誌等を活用した広告掲載が展開された。

令和元年10月、予定通り『山口県大学ML連携特別展』は開幕した。会期中に計測された見学者数は少なくとも約1,000名（図書館での開催は見学者を正確にカウントすることが困難）、スタンプラリー全館達成者も3名にのぼった。次頁より参加各館の展示内容の紹介と実施成果を報告する。

事業の実施体制

・主催

山口県大学ML連携事業実行委員会事務局

代表	田中俊二	(山口大学情報環境部学術情報課 課長)
事務担当	田村広明	(山口大学情報環境部学術情報課 副課長)
	川上誠	(山口大学情報環境部学術情報課 図書系主任)

下関地区担当	下関短期大学図書館
宇部地区担当	宇部フロンティア大学附属図書館

・参加館

岩国短期大学附属図書館 宇部フロンティア大学附属図書館
 山陽小野田市立山口東京理科大学図書館 至誠館大学附属図書館
 下関市立大学附属図書館 下関短期大学附属図書館 水産大学校図書館
 東亜大学附属図書館 徳山大学図書館 梅光学院大学図書館
 梅光学院大学博物館 山口県立大学図書館
 山口学芸大学・山口芸術短期大学図書館 山口大学医学部図書館
 山口大学工学部図書館 山口大学総合図書館 山口大学埋蔵文化財資料館
 (50音順)

・共催

大学リーグやまぐち 山口県大学図書館協議会

・後援

山口県図書館協会 山口県博物館協会 大学博物館等協議会



展示広報用ポスター



山口県大学ML連携事業Web



岩国短期大学 附属図書館

『さあ、はじまるよったら、はじまるよ！
～乳幼児の生きる力をはぐくむ絵本との出会い～』

住 所：〒740-0032 山口県岩国市尾津町2丁目24-18
電 話：0827-31-8141 (代)
e-mail：library@iwakuni.ac.jp
http://www.iwakuni.ac.jp/
●開催期間：10月23日(水)～12月20日(金)
※図書館の一般開放は行っていません。

【展示内容】

絵乳幼児が最初に出会う言葉とイメージの世界は絵本です。乳幼児が生きていくための心の世界を育むために必要なファンタジーの世界は絵本が与えてくれます。

今回は、本学幼児教育科の図書館に所蔵された乳幼児向け人気絵本一部と共に絵本を題材とした授業の紹介などの展示も行い、乳幼児と絵本の出会いを多面的に紹介しました。

【観覧者数】

約50名

【関連事業】

・学生図書委員によるおはなし会

大学祭当日11月17日(日)午後1回(30分)：参加者9名(乳幼児含む)

【成果】

観覧に来られた方は、やはり絵本に興味のある方が多く、懐かしみながら手に取り楽しんでいただけたように思います。

また、絵本を題材とした授業での学生作品についてご好評いただき、本学の学びへの取り組みや学生たちの創造性を発信することができました。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

本館の特性の一つに幼児教育図書の豊富さが上げられます。今年は、例年よりも観覧者数が減少しました。次年度はより多くの観覧者を迎え、少しでも本学図書館の特色及び展示を見ていただけたらと思います。より親しみ深い特別展示の検討が必要であると思いました。人員的にも業務時間的にも厳しい現状から、今後どのように進めていくかが課題です。



展示観覧風景



学生図書委員によるおはなし会の様子



宇部フロンティア大学附属図書館

『はじまる～喫煙防止習慣 anti-smoking～はじめる』

住 所：〒755-0805 宇部市文京台2-1-1
電 話：0836-38-0524
e-mail：tosho@frontier-u.ac.jp
http://www.frontier-u.jp/intro-univ/a-institution/a-library/
●開催期間：10月1日(火)～12月20日(金)

【展示内容】

望まない受動喫煙の防止を目的とする改正健康増進法の成立により、公共施設は原則「敷地内禁煙」がはじまりました。宇部フロンティア大学では、2007年に人間健康学部看護学科が開設され、質の高い看護専門職者育成を目指して日々努力しています。看護師の重要な職務のひとつは、「ひとがより良い健康行動をとることができるように支援する」ことです。今回の展示では、当大学で行った大学生の喫煙に関する調査の結果をはじめ、喫煙の心身に及ぼす影響などを解説し、書籍の紹介も行いました。

【観覧者数】

89名(カウントできたもののみ)

【関連事業】

大学祭の図書館開館

【成果】

当大学で行った大学生の喫煙に関する調査結果や、喫煙の心身に及ぼす影響などを解説した制作品を展示したことで、煙草について考える切っ掛けや、喫煙防止習慣の必要性について紹介することができました。開催期間中に行われた大学祭では、多くの家族連れに閲覧いただき、受動喫煙についての啓発を行うことができました。また、子供向けの絵本をはじめ、多くの喫煙関連書籍の紹介もできました。

ML展のポスター等をカウンター周辺に設置したことで、図書館利用者の目に触れることが多くなり、図書館員が利用者に企画を紹介する機会が増えました。全館達成者は、2名ありました。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

図書館以外の各部署、教職員との連携を図り、学内協力体制を得ることで、広報活動に努めたい。



展示の様様



展示観覧風景



山陽小野田市立 山口東京理科大学 図書館 『山口での理科大の始まり』

住 所：〒756-0884 山口県山陽小野田市大学通 1-1-1

電 話：0836-88-4512

e-mail：ylib@admin.socu.ac.jp

http://www.socu.ac.jp/laboratory/library

●開催期間：11月5日（火）～12月27日（金）

【展示内容】

本学は、学校法人東京理科大学が高度な技術者・科学者を養成すべく、「東京理科大学山口短期大学」を1987年に開学したことから始まりました。そして1995年に山口東京理科大学として4年制大学へ改組しました。2016年に公立大学法人に移行して「山陽小野田市立山口東京理科大学」となりました。

今回の展示では、開学当時の学内刊行物やアルバム、教科書等を展示しました。併せて、コンピュータ実習の始まりとして、記録媒体の変遷についての展示、N88-BASIC（エミュレータ）での実演展示も行いました。

【観覧者数】

67名

【成果】

記録媒体の歴史について、実物を展示することで、どのようにサイズ・容量等が変化していったか、文字だけでは伝えきれない情報をリアルに提供できたと思います。次年度以降も、理工学・薬学系大学ならではの展示を実施していきたいと思います。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

本学の特色を生かした展示を実施するうえで、図書館職員を中心に教員や他部署の職員との協力体制を構築し、より関心を引くような展示をできるようにしたいと思います。



展示の様様



展示の様様



至誠館大学 附属図書館 『幼児期からはじめる運動能力向上の 実践』

住 所：〒758-8585 山口県萩市椿東浦田 5000

電 話：0838-24-4081

e-mail：library@shiseikan.ac.jp

http://www.shiseikan.ac.jp/library/

●開催期間：10月15日（火）～12月20日（金）

【展示内容】

近年、幼児の総合的な運動能力を向上させるための「コーディネーション運動」が注目されています。本学では、幼児を対象として、コーディネーション運動を実施している運動教室を開催しています。本展示では、写真や体力測定から得られたデータなどを用いて、教室での取り組みをご紹介します。

【観覧者数】

不明（記帳12名）

【関連事業】

親子運動あそび教室（総合型地域スポーツクラブ至誠館クラブ）

【成果】

教員の研究成果を学内外の方々に知っていただく良い機会となっています。

今年度は、スタンプラリーの応募条件を4館と全館達成にしたことにより、市外からの観覧者もいらっしゃいました。離れた地域の方々にも、本学のことを知っていただく良い機会となりました。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

次年度も教員と連携して、より充実した展示内容にできるようにしていきたいです。

スタンプラリーの全館達成景品を充実させたことにより、スタンプラリーの参加者に交通の不便な本学にも来館していただきました。来年度もスタンプラリーを行う場合、達成条件や景品を継続するようにし来館者の増加を期待したいです。



展示の様様



展示観覧風景



下関市立大学 附属図書館

『鳥瞰図で見る！ 古今東西旅のはじまり』

住 所：〒751-8510 山口県下関市大学町 2-1-1
電 話：083-252-1211
e-mail：library@shimonoseki-cu.ac.jp
http://www.shimonoseki-cu.ac.jp/library/
●開催期間：10月21日（月）～12月20日（金）

【展示内容】

昭和期に描かれた鳥瞰図数点を中心とし、新元号そして東京オリンピックを控え、インバウンドに湧く日本の独自の魅力を、鳥瞰図から新たに発見していただきました。

また昨今のご朱印ブームを踏まえて、特に神社仏閣関係の鳥瞰図を揃え、現代の図書資料としての同一神社仏閣の資料と比較し、古今東西の国内旅行、ひいては日本の様々な土地の魅力について問いかける展示を行い、新たな時代のはじまりから過去を振り返り、当時の人々を魅了した絵画技法などを紹介しました。

【観覧者数】

およそ90名

【成果】

本展示を鑑賞する方からは、概ね良好な反応がありました。

そのなかで、鳥瞰図や日本独自の魅力に少なからず興味を持っていただけたと思います。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

ML連携への参加期間も長くなってきているため、鑑賞する方々に新しい企画を提示することが難しくなっています。

また、ML連携をもっと広めてほしいという意見もあり、県民に知ってもらう工夫も必要だと思いました。



展示観覧風景



展示の様様



下関短期大学 図書館

『音の始まり、初めの音 ～手作り楽器を通し～』

住 所：〒750-8508 山口県下関市桜山町 1-1
電 話：083-223-5340
e-mail：lib@shimonoseki-jc.ac.jp
http://www.shimotan.jp/publics/index/51/
●開催期間：11月1日（金）～1月31日（金）

【展示内容】

本学保育学科での音楽表現に関わる活動として、手作り楽器の創作を行っています。学生が様々な民族楽器をモデルに、音の出る仕組みを理解、研究し創作した楽器を紹介しました。子どもたちが最初に触れる手作り楽器を通し、音楽表現の可能性を探りました。

【観覧者数】

不明

【関連事業】

ワークショップ 「自然の音を探そう～何の音に聞こえるかな？」

11月10日（日）桜山祭開催。参加者：4歳～10歳児と保護者

【成果】

「音の始まり」として諸国の民族楽器を、「初めての音」として子ども向けの手作り楽器を展示しました。本学保育学科の学生たちが中国の笛子、韓国のチャング、アフリカ大陸のパラフォンやカリンバなどから“自然の音”のヒントを得て制作した手作り楽器を民族楽器と合わせて展示しました。遊び方・鳴らし方は動画にアクセスできるQRコードをキャプションボードに入れて紹介しました。展示に訪れた方々は楽器を鳴らしてその音色を楽しんでおられました。

また大学祭中は「自然の音をさがそう」と題した手作り楽器ワークショップも開きました。本学学生の援助のもと子どもたちが手作り楽器で遊べるコーナーを設けましたが、手作り楽器の音を“雨の音みたい”“枯葉の音”“炭酸の音”“おならみたい”などと子どもならではの感性で自然の音として楽しんでくれました。

人工の音が溢れている今日、“自然の音”へ誘う橋渡し役として民族楽器と手作り楽器の可能性を再確認できました。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

広報活動の強化と、来場者の多くは地域の方なので、周辺校との連携も必要と思われます。



展示観覧風景



ワークショップの様子



水産大学校 図書館

『海からはじまる
～新たな水産業を考える～』

住 所：〒759-6595 山口県下関市永田本町 2-7-1

電 話：083-286-5114

e-mail：nfulib@fish-u.ac.jp

http://library.fish-u.ac.jp/

●開催期間：11月1日（金）～12月27日（金）

【展示内容】

水産大学校の教育及び研究の説明付き写真を展示することで、若き学生達の学びのはじまり、生物や食品の誕生、水産や航海の新技术の開発などを紹介しました。

【観覧者数】

80名

【成果】

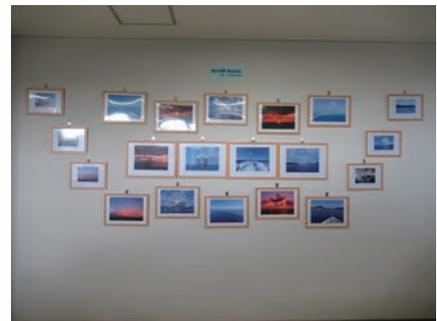
本校の創立時代の風景写真や学生がはじめて経験する実習や実験の写真、船上からしか見ることができない美しい海洋の写真を展示しました。これによって、観覧者に本校の教育活動の過去から現在までの特徴をご理解いただけたと考えます。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

展示した写真に対する詳しい説明文があった方が観覧者に分かりやすかったと思います。



展示観覧風景



展示の様様



東亜大学 附属図書館

『下関から世界へ
～現役作家の漫画展～』

住 所：〒751-8503 山口県下関市一の宮学園町 2-1

電 話：083-257-5111

e-mail：tosyo@toua-u.ac.jp

https://www.toua-u.ac.jp/

●開催期間：11月5日（火）～1月31日（金）

【展示内容】

東亜大学は、学内に漫画図書館を付設し県内漫画作家たちの活動を支援しています。

今回は県内で活躍する漫画家のうち、関よしみ、遠野かず実の両氏にスポットをあてました。展示では、両氏のほか地元作家の作品・原画も展示し、期間中にデジタル漫画の実演を含む漫画作成のプロセスを体験する会を開催しました。

【観覧者数】

72名（芳名帳記載者数）

【関連事業】

デジタル漫画実演：12月13日（金）、12月20日（金）、1月11日（土）、1月25日（土）の字間12：00～16：00にササカマトモ先生が実演

【成果】

学生の参加数が思った以上に少なかった。漫画を好む学生集団と日常的に図書館を利用する集団の交わり（積集合）が小さいことにより、（漫画を好む学生集団が）あえて図書館の中に入ろうとするには心理的バリアーが高かった、のではないかと推量します。とはいえ、初めて図書館に入り見学に来た学生もいたことから今後の図書館利用に好影響をもたらすと思われます。

1月23日（木）14：30から新聞社（読売新聞）からの取材がありました。漫画図書館開館と今回のML展の開催は深く関係しています。ML展に漫画図書館開館の宣伝効果を狙う一面がありました。その意味では、大きな成果があったといえます。市民の方には、東亜大学が積極的に大学開放に取り組む姿勢を知っていただいたのではないのでしょうか。なお、記事は写真付きで2月17日開館日の朝刊に掲載されました。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

広報活動に心がけ、特に在学生への参加を呼び掛けたい。



展示の様様



展示の様様



徳山大学 図書館

『始まりの日本
～千治松コレクション2～』

住 所：〒745-8566 山口県周南市学園台
電 話：0834-28-5394
e-mail：toshokan@tokuyama-u.ac.jp
<http://www.tokuyama-u.ac.jp/about/about/facility/library/>
●開催期間：10月28日（月）～12月26日（木）

【展示内容】

昨年度に引き続き、再び本学収蔵の資料「千治松家コレクション」から展示いたしました。「はじまりの日本」というテーマに即し、幕末から昭和にかけての政治家、軍人（木戸孝允、伊藤博文、山県有朋など）の書の一部を公開しました。展示された歴史資料とともに日本の新たなはじまりを体感していただけましたと思います。

【観覧者数】

59名

【関連事業】

特別展関連資料展示（期間中）
ブックリサイクル（大学祭期間中）

【成果】

地域広報誌「サンデー周南」などの広報の影響もあり、大学図書館への関心が広がりました。その結果、学外者にある程度認知されることができました。

スタンプラリー全館達成のグッズが好評のようで、インセンティブをつけることで来館への誘因になったことも成果と考えられます。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

学内関係者、特に学生への興味関心を喚起することが課題です。また、一般市民集客の工夫をもう少し考えることも必要と感じます。（ML 事業全体の広報・大学図書館ごとの広報のあり方）



展示の様様



ブックリサイクル



梅光学院大学 図書館

『心新たにBegin!
梅光・図書館の学生協働!』

住 所：〒750-8511 山口県下関市向洋町 1-1-1
電 話：083-227-1040
e-mail：library@baiko.ac.jp
<http://www.baiko.ac.jp/university/library/>
●開催期間：11月5日（火）～1月31日（金）

【展示内容】

梅光学院大学図書館は、学生が職員と協働で図書館を盛り立てる活動を、2004年から始めています。

その活動は、本学の教育や建学の精神と深く関係しており、学生たちは活動をとおして、コミュニケーション力やプレゼンテーション能力を身につけ、他者のために働くことを体現しています。

これまでの活動を取りまとめご紹介することで、心新たに学生協働の活動を再スタートしたいと思いました。

【観覧者数】

不明

【成果】

大学図書館の「学生協働」を知ってもらい、学生作成の活動報告ポスターや「先生のオススメ本」コーナーを、地域の方々にも広く見ていただくことができました。

学内では、展示を観覧した先生から「先生のオススメ本」に参加したいという嬉しい申し出もありました。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

今回は、大学図書館の「学生協働」という一般的にはなじみのない事柄を紹介しました。反省として、学生協働なので学生に何かワークショップをしてみたらよかったと思っています。

次年度は、さらに梅光学院大学をよく知ってもらえるような企画を立てたいと思います。



展示の様様



展示観覧風景



梅光学院大学 博物館

『博物館協働のカタチ
～面縄貝塚初公開!～』

住 所：〒750-8511 山口県下関市向洋町 1-1-1

電 話：083-227-1070

e-mail：museum@baiko.ac.jp

http://www.baiko.ac.jp/university/museum/

●開催期間：11月5日（火）～1月31日（金）

【展示内容】

梅光学院大学博物館と学生協働（博物館サポーター：博サポ）による展覧会です。2019年度の館蔵資料整理の1つに「面縄第二貝塚」（鹿児島県・徳之島伊仙町）出土資料があります。1954年8月に元本学教授・園分直一先生が発掘調査されたもので、未整理のため一般公開されていなかった資料群です。今回のMLテーマ「はじまる～Begin～はじめる」を受けて、博サポ達と資料洗浄作業を開始し、整理報告としての展示を行いました。

【観覧者数】

253名

【関連事業】

博物館サポーター学生によるミュージアムトーク

11月30日（土）2回実施 参加者計22名

【成果】

学生協働による初の展覧会では、62年間未公開だった館蔵資料を史跡地・鹿児島県伊仙町の協力で開催、A4版三つ折りの解説資料を作成、来館者へ配布しました。一番の成果といえば本展を担当した学生9名の成長かもしれません。真夏の資料洗浄、出品の選択、学術情報として何を抽出、展示公開させたいのか、試行錯誤で開催させ、タブレットを使い自作画像で「わかってもらえるためのトーク」に挑戦、会期終了・撤収までをやり遂げました。来館者からはたくさんの言葉を頂戴し、学生達は各自でそれを受止め、次を模索し始めています。大学博物館における「生涯学習・社会教育」活動の1つとして、一定の役割が果たせたのではないかと実感しています。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

本事業は、本学の所蔵資料を、知的な関心へとつなぐ「学術情報」に変換するきっかけになっています。今後も学生協働を深めて、趣向やアプローチの方法をさらに模索、挑戦して、来館者が「企画プロセス含めて知的に丸ごと面白い!!」と楽しみ、共鳴していただけるような事業になればよいと思います。



展示の様様



学生ミュージアムトーク風景



山口学芸大学 山口芸術短期大学 図書館

『学びの始まりを支えるもの』

住 所：〒754-0032 山口県山口市小郡みらい町 1-7-1

電 話：083-972-3288

e-mail：akiyama@yamaguchi-jca.ac.jp

http://www.yamaguchi-jca.ac.jp/library/

●開催期間：10月22日（火）～12月19日（木）

【展示内容】

本学では、子どもの学びを支えるツール、とりわけ学びの初期段階において学習への興味関心を高めるためのツールを多数収集・作成しています。学生が制作した人形劇用の人形を中心として、人形劇と教育の歴史に関わる資料やパネルを展示しました。展示物は触れることも可能としました。

【観覧者数】

2,786名 ※ML連携展示会場（図書館2階）来館者数

【成果】

学生たちの幼児教育・保育に対する熱意を紹介すると同時に、本学の保育者養成の成果を発表する機会となりました。

昨年度までは別棟の展示室を使用していましたが、今年度は図書館のラーニング・コモンズを利用して展示したため、一般来館者に本学の新しい図書館を知っていただく機会となりました。また来館した学生が興味をもって立ち止まるという光景が多々見受けられました。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

今年度は、教職員への周知がいきなり、例年以上に教職員の観覧がありました。一方、学生への周知が徹底しなかったため、来年度は掲示板やサイネージによる紹介の在り方を改善する必要があります。



展示の様様



展示観覧風景



山口県立大学 図書館

『日本近代国家のはじまり』

住 所：〒753-8502 山口県山口市桜島 3-2-1
 電 話：083-928-0522
 e-mail：lib@sakura3.yamaguchi-pu.ac.jp
<https://www.ypu.jp/li/>
 ●開催期間：11月5日（火）～1月30日（木）

【展示内容】

本学図書館が所蔵する桜園寺内文庫は、朝鮮総督や内閣総理大臣などを歴任した寺内正毅氏によってその基礎が作られ、子息 寿一氏によって完成された施設文庫を起源としています。

明治元勳ゆかりの資料で、近代日本の歴史像を解明する上で非常に貴重な資料群です。

今回の展示では、寺内正毅氏の没後100年を記念して、資料群からいくつかを選び、公開しました。

【観覧者数】

90名

【成果】

今回の展示は寺内正毅氏没後100年を記念して、本学図書館が所蔵する桜園寺内文庫資料群から、明治元勳ゆかりの資料を選び、展示しました。観覧者からはアンケート結果、展示物、解説共に高い評価を得ることができました。本学学生はもとより、学外からの参加者も多く、ホームページで知ったということで、海外（韓国）からの観覧者もあり、好評でした。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

次年度は図書館移転のため、このML連携展に参加できませんが、今後は本学が所蔵する資料を公開展示していきたいと考えます。



展示の様様



展示の様様



山口大学 医学部図書館

『見て！ 考えて！ 実感する！ 新病棟開院！』

住 所：〒753-8505 山口県宇部市南小串 1丁目 1-1
 電 話：0836-22-2142
 e-mail：medlibsa@yamaguchi-u.ac.jp
<http://www.lib.yamaguchi-u.ac.jp>
 ●開催期間：11月4日（月）～1月31日（金）

【展示内容】

山口大学医学部では、高度で安心・安全な医療の提供、新たな治療の開発、医療人の育成に取り組んでいます。

本展示では、新病棟の外観模型を展示するとともに、山口県唯一の特定機能病院として、高度急性期医療を推進していくための新機能をパネルで紹介しました。

【観覧者数】

8名

【関連事業】

医学部医学科保護者見学会：1月24日（金）参加123名

【成果】

山口大学医学部附属病院の新病棟を広く広報することで、主に医学部学生に関心をもってもらうことができた。新しい医療設備の導入等、彼らの医療関係者としての将来像に役立てていただけると幸いに思います。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

来年度は、改修のため不参加の予定です。

医学部学生が利用者のほとんどを占めるため、学生からのフィードバックが重要と考えます。具体的には、学生に簡単な選択式のアンケートを行い、投票数がある場でわかったら興味を持つのではないかと思います。



展示の様様



展示観覧風景



山口大学 工学部図書館

『担いはじめる ～次世代エンジニアの育成～』

住 所：〒755-8611 山口県宇部市常盤台 2-16-1
電 話：0836-85-9051
e-mail：infoserv@yamaguchi-u.ac.jp
http://www.lib.yamaguchi-u.ac.jp
●開催期間：11月5日（火）～1月31日（金）

【展示内容】

山口大学工学部では、イノベーションの創出に貢献できる人材育成を目指すとともに、日々の私たちの生活をより豊かに・便利にしていくため、最先端の研究に取り組んでいます。

今回の展示では、これからの未来を担いはじめるエンジニア育成に着目した、工学部のイノベーション教育・研究を中心に紹介しました。

【観覧者数】

34名

【成果】

工学部の人材育成に焦点を当て、工学部の概要や力を入れている研究を中心に展示を行いました。展示を行うに当たり、工学部の事務部からパネルをいただいたり、教員が著作した図書を寄贈していただいたりなど、様々な部署から協力を得ながら進めることができました。結果として、関連部署や、観覧した方（教職員・学生・一般）へ工学部や図書館の広報にも繋がったのではないかと感じています。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

来年度は、改修のため不参加の予定です。

「卒業生の声」のパネルは学生の興味を引きやすかったのか、閲覧していただくことが多く、そういったパネルを混ぜることで、館内の利用者に興味を持たれやすい展示内容を工夫したいと感じました。



展示の様様



展示の様様



山口大学 総合図書館

『毛利元次と棲息堂文庫』

住 所：〒753-8511 山口県山口市吉田 1677-1
電 話：083-933-5183
e-mail：toshokan@yamaguchi-u.ac.jp
http://www.lib.yamaguchi-u.ac.jp/
●開催期間：11月5日（火）～1月31日（金）

【展示内容】

徳山藩第三代藩主・毛利元次公は、学問を好み、古今の書籍を収集しました。元次公は、館の後ろに燕居読書の場として「棲息堂」を建て、読書に耽るだけでなく、多くの学者や文人たちと交流をもちました。元次公が収集した膨大な書籍の一部は、いくつもの時代を経て、山口大学図書館に「棲息堂文庫」として所蔵されています。

元次公の没後300年にあたって、本展示では元次公の生涯と公が収集した書籍についてパネルで紹介するとともに、棲息堂文庫から貴重な資料を展示しました。

【観覧者数】

図書館利用者と同一の入口のため計測不可

【成果】

本学に所蔵する徳山藩の蔵書「棲息堂文庫」について、収集した毛利元次公の生涯や業績、徳山藩の歴史と関連付けて紹介する良い機会となりました。

また、パネル作成の過程で、職員が字間の貴重資料の持つ歴史的背景について知識を深めることができました。

パネルに使用する資料や画像の提供でご協力いただいた周南市の博物館や図書館にも広報をお願いし、アンケートによると周南市在住の方にも展示に興味を持ってもらうことができました。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

展示内容に応じて地域の方へ効果的な広報を行いたい。アンケートの回答数を上げる工夫をしたい。



展示観覧風景



展示の様様



山口大学 埋蔵文化財資料館

『ここから始まる
山口大学発掘調査速報展』

住 所：〒753-8511 山口県山口市吉田 1677-1

電 話：083-933-5035

e-mail：yuam@yamaguchi-u.ac.jp

http://yuam.oai.yamaguchi-u.ac.jp/Shiryokan.home/

●開催期間：11月10日（日）～1月31日（金）

【展示内容】

山口大学キャンパスは遺跡の上に立地しています。今回の展示では、平成27年度から30年度にかけて当館が実施した発掘調査の成果（古墳時代中期の竪穴住居から出土した土器や、奈良時代の官衙関連資料）を公開しました。考古学研究の始まりは発掘調査から。最新の考古学情報をお届けしました。

【観覧者数】

276名

【成果】

展示開催期間が発掘調査期間と重なったため、直接観覧者の反応を見る機会に恵まれませんでしたが、アンケートの回答を見ると、複数の方に遺跡地での開発工事と埋蔵文化財保護の両立がいかにかに困難であるかを感じていただいたようでした。当館の諸活動に関し、理解が深まる契機になったのではないだろうかと思えます。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

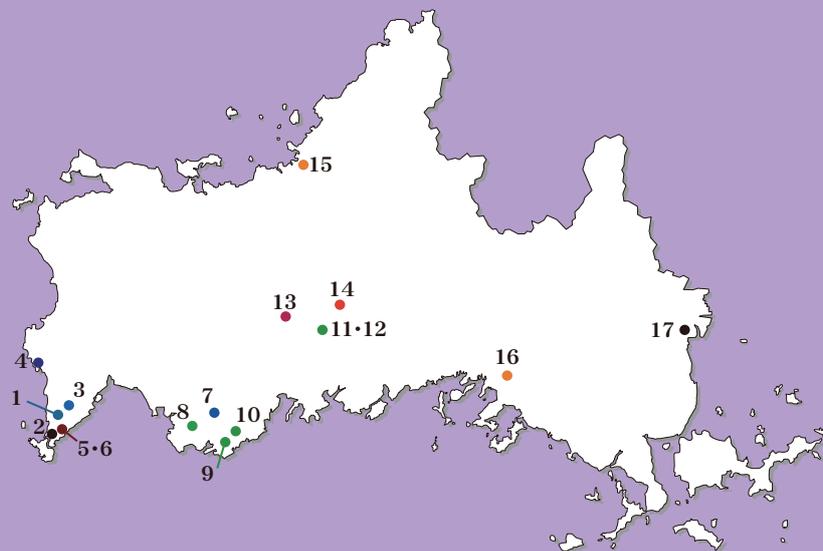
毎年大学祭（吉田キャンパス姫山祭）の開催に合わせて展示をオープンしていましたが、大学祭メイン会場が移動したことで当館は完全に会場外となってしまいました。次年度はオープン日を再考したいと思えます。



展示会場外観



展示の様様



【下関地区】

1. 下関市立大学附属図書館
2. 下関短期大学図書館
3. 東亜大学附属図書館
4. 水産大学校図書館
5. 梅光学院大学図書館
6. 梅光学院大学博物館

【宇部地区】

7. 宇部フロンティア大学附属図書館
8. 山陽小野田市立山口東京理科大学図書館
9. 山口大学医学部図書館
10. 山口大学工学部図書館

【山口・萩以東地区】

11. 山口大学総合図書館
12. 山口大学埋蔵文化財資料館
13. 山口学芸大学・山口芸術短期大学図書館
14. 山口県立大学図書館
15. 至誠館大学附属図書館
16. 徳山大学図書館
17. 岩国短期大学附属図書館

MUSEE

kin



山口県大学ML (Museum・Library) 連携特別展
令和元年度 共通展示テーマ『はじまる～Begin～はじめる』
山口県大学ML連携事業Web
<http://www.oai.yamaguchi-u.ac.jp/ml/>

【編集・発行】
山口県大学ML連携事業
実行委員会事務局
〒753-8511 山口市吉田1677-1
電話：083-933-5192
e-mail: li322@yamaguchi-u.ac.jp

[主 催] 山口県大学ML連携事業実行委員会事務局
[共 催] 大学リーグやまぐち 山口県大学図書館協議会
[後 援] 山口県博物館協会 大学博物館等協議会
山口県図書館協会